

今日のトピック ユーロ圏のGDP成長率（2016年4-6月期）

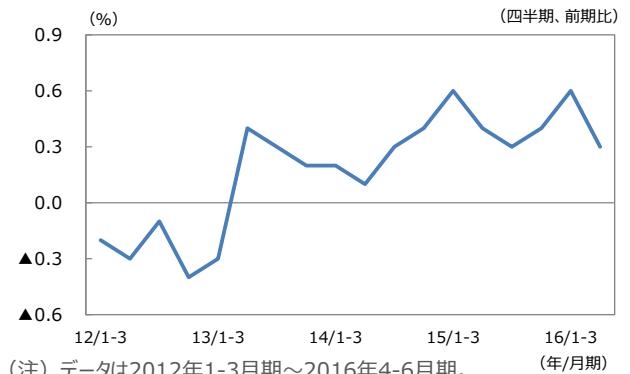
国別ではドイツ、スペインが成長持続

ポイント1 改定値は速報値と同じ

4-6月期GDPは0.3%増

■ 2016年4-6月期のユーロ圏の実質GDP改定値は、速報値と同じ前期比+0.3%でした。1-3月期（同+0.6%）からやや鈍化しましたが、プラス成長を維持しています。ただし、6月23日の国民投票で英国がEU離脱（Brexit）を選択した影響は、今回のGDP統計にはほとんど反映されていません。

ユーロ圏実質GDP成長率



（注）データは2012年1-3月期～2016年4-6月期。
（出所）Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

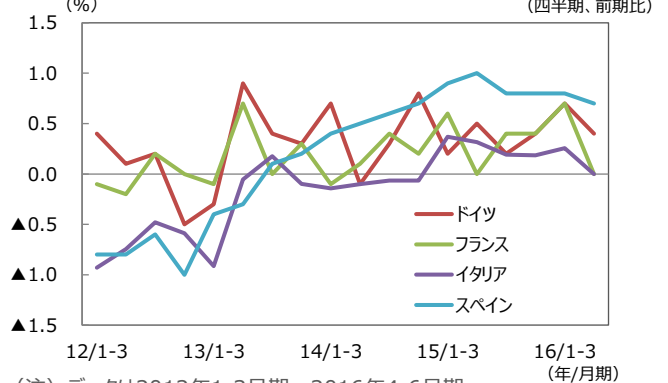
ポイント2 フランス、イタリアはゼロ成長

イタリアの銀行問題は懸念材料

■ 国別にみると、ドイツは前期比+0.4%と、1-3月期の同+0.7%から減速しました。フランスは同0.0%（前期は+0.7%）、イタリアは同0.0%（前期は+0.3%）、スペインが同+0.7%（前期は+0.8%）と、いずれも1-3月期から減速し、フランスとイタリアはゼロ成長となりました。

■ 特にイタリアについては、景気回復が遅れる中で、銀行問題（公的資金の投入と債権者の負担を先送りした形となったモンテパスキ銀行の再建問題）の動きに注意が必要です。

国別実質GDP成長率



（注）データは2012年1-3月期～2016年4-6月期。
（出所）Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 「Brexit」で減速も、金融緩和と財政拡大で対応可能

■ ユーロ圏主要国は景気が安定するドイツ、スペインと景気が不安定なフランス（テロの影響が残る）、イタリア（不良債権問題を抱える）に分かれた形となっています。今後のユーロ圏全体の経済成長率は、「Brexit」の影響を受けて減速する見通しです。

■ ただし、「Brexit」を控え、欧州中央銀行は9月の理事会で追加緩和を行う見込みです。また、ユーロ圏各国は状況に応じ、財政支出を拡大することが想定されます。積極的な金融緩和と財政政策により、景気底割れは回避されると見られます。

**ここもチェック! 2016年8月4日 最近の指標から見る欧州経済（2016年8月）
2016年8月2日 欧州銀行の「ストレステスト」（欧州）**

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。